

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2023 世代間交流新規事業スマホなんでも相談会活動報告-

（2023年度 大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」対象事業）

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール

岩田柚菜、大谷彩花、陸彩菜、近藤海優、齋藤純白、徳永賢人、中村優貴（4年）

雨宮永大、上江洲安輝、大串慶斗、近藤直希、清水寛太、鈴木達也、徳常生吹、酉田凌馬、堀勇斗（3年）

1.経緯・目的

ゼミのプロジェクトである駅前サロン(=高齢者サロン)の運営を通じて高齢者と会話する中で、スマートフォン(以下、スマホ)の使い方に関する質問を受けることが多くあった。また「サロンの企画内容に関する要望」を伺ったアンケートでも「スマホの使い方を教えてほしい」という要望が多く寄せられた。サロンではスマホの相談にのれる時間が限られるため、新規事業としてスマホなんでも相談会を開催することを決定し、連携団体と相談しながら準備を進めた。目的は、高齢者が抱えるデジタルに関する問題を解決することで、スマホの機能を活用し、情報格差の解消に繋げること、安心・安全にスマホを使いこなすことで日々の生活をより豊かにしてもらうことである。本企画は、スマホの相談会だけでなく世代間交流の場も設けた。

2.活動内容、活動内容からの気づき

参加者には予め相談内容を受付表に記載してもらい、それを確認して対応を行った。帰宅後でも忘れずに1人でスマホの操作ができるように、紙に解決方法を書いて渡した。参加者の悩みに理解を深める中で、1対1の対話が重要な役割を果たした。参加者が比較的少なかったことから、個別対応が可能であり、積極的な姿勢で取り組むことができた。知識不足を感じた場面でも、PCを用いたの情報収集によって問題を解決することができた。この交流を通じて、私たち学生は高齢者から情報格差の問題について学び、お互いの経験や視点を共有することで、コミュニケーションの深化と相互理解が生まれた。

3.まとめ・地域活動から気づいた事・学んだ事

この活動を通して、高齢者のスマートフォンに対する悩みが多くあることが分かった。近年一人暮らしの高齢者が増加しており、そういった悩みを家族に気軽に相談できなくなっている。携帯ショップで開催されるスマホ教室では、参加費用が必要だったりその店の商品を営業されたりするおそれがあるためあまり良いイメージを持っていなかった。そのため、社会的団体の協力のもと学

生が開催することで高齢者は安心して気軽に相談できるため意義があると実感した。若い人と話すだけでとても元気になると言ってくださる方もいた。日常生活で会話する事が減った高齢者の方々にとっても良い機会になったと感じる。相談内容については、音量の上げ方、写真の撮り方など私たちにとっては当たり前に行っていた事でも分からないという人がいた。また、地図の使い方や電子決済の使用方法なども教えることができ、目的であるスマホを使いこなす事で日々の生活をより豊かにしてもらうという事を達成できた。参加者の方々からたくさんのお礼の言葉をいただき、私たちが想像している以上にこのプロジェクトの需要があることが分かった。今後も満足いただけるよう尽力していきたい。

4.外部評価:八王子市高齢者あんしん相談センター様

今回の企画について、駅前サロンの参加者からのニーズを拾い上げて開催して下さったことがとても素晴らしいと思います。困りごとや課題をつかみ、それを解決に結びつけた点が評価できると思います。現在の社会情勢を考えるとSDGsが加速します。デジタル化は今後ますます加速するでしょう。今回の能登半島地震からも情報収集の大切さを感じ、災害情報などをキャッチするためにもスマホは欠かせないと考えます。学生さんが教えてくださることで多世代交流ができ、学生さんの得意分野を活かすこともできたかと思います。非常によかったと思います。今後ともよろしく願いいたします。

謝辞

長年にわたり本プロジェクトにご支援、ご協力頂いております八王子市高齢者あんしん相談センター旭町(=地域包括支援センター)、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員・協力員、有志、大学コンソーシアム八王子、八王子市高齢者いきいき課の皆様にご心よりお礼申し上げます。

今年度より連携させていただいているJR東日本八王子営業統括センターの皆様にお礼を申し上げます。